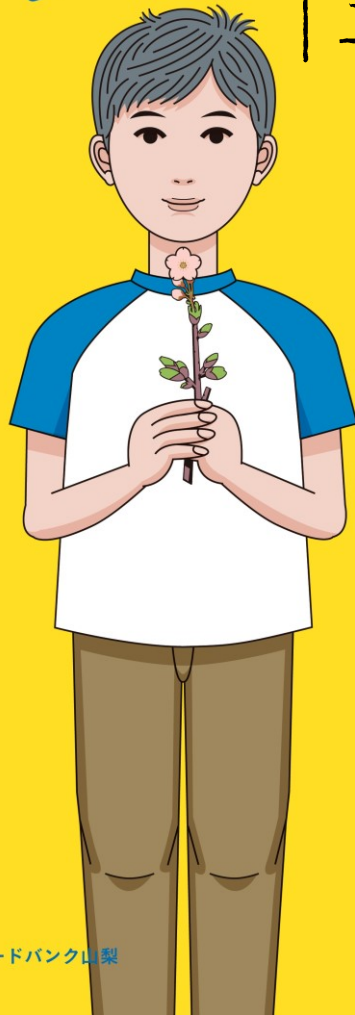


フードバンク と ぼく



さく 米山けい子
え 三井ヤスシ

認定NPO法人フードバンク山梨

B5版/36ページ

困窮家庭に育ち、孤立する少年が
フードバンクとの出会いを通して
自分と向き合い、社会とのつながり
を取り戻す——。

フードバンク山梨理事長 米山けい子から
若い世代へ贈るメッセージ

お問い合わせはこちら♪



「フードバンクとぼく」
公式LINE

ご質問にお答え
します！

最新情報を
お届け！

私たちにしか
描けない
「子どもの貧困」と
自立の物語

クラウド
ファンディングで
ご寄付の協力を！

3.25月
スタート

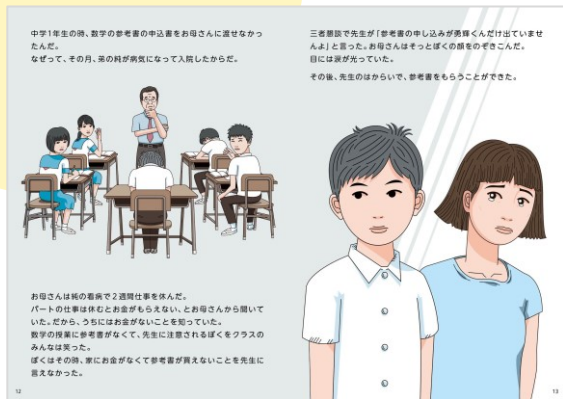
詳しい内容・
ご支援はこちら！



クラウドファンディングサイト
READYFORプロジェクトページ

もしも、勇輝が仲の良い友だちだったら、
あなたはどうしますか？

—— 米山けい子



画：三井ヤスシさん
山梨県南アルプス市出身。現在北海道旭川市で活躍。
フードバンク山梨には設立当初から賛同・協力。
著書に『福音ソフトボール 山梨ダルクの回復記』『甲府の動物園物語』など。

お問い合わせは
こちら！



「フードバンクとぼく」公式LINE

どうして本をつくるの？

誰にも困窮のリスクがある。私たちは日々そう感じています。子どもの貧困の実態を多くの方に伝え、一人ひとりが「自分ごと」として行動するきっかけにしたいからです。

誰に向けた作品なの？

「勇輝」と同じ、高校生に読んで欲しいと考えています。多くの学生に手に取ってもらえるよう、学校や図書館に贈ります。

クラウドファンディングを利用するのはなぜ？

インターネットを通してたくさんの方に情報が届き、「子どもの貧困」について知っていただくことができます。一人でも多くの方のご協力を、ぜひお願いいたします。

担当スタッフから

主人公の「勇輝」は不登校の高校1年生。「ぼくはなぜ、学校に行けなくなったんだろう」と繰り返し自問します。

その背景には、必死に働いても生活が苦しい母子家庭の実態があります。

友だちづきあいを通して社会性が育まれる子ども時代に、貧困が及ぼす影響はあまりに大きいのです。それでも社会の中で生き抜く力をつけ、自立しなければなりません。

そんな困窮世帯に育つ子どもたちの厳しい現実を、まずは知ってほしい。そして「助けて」と声を上げられる、困っている人がいたら手を差し伸べる、相互の関係が当たり前になるように。

「フードバンクとぼく」がそのきっかけになればと思います。



川崎

高野

クラウドファンディング

2024. **3.25** 月

12:00
スタート



ご支援は
こちら！

認定NPO法人 フードバンク山梨

〒400-0203 山梨県南アルプス市徳永1603-1

Tel: 055-298-4844

E-mail: info@fbyama.com

https://fbyamana.fbmatch.net



お気軽にお問い合わせください

フードバンク山梨は「認定NPO法人」です
寄付いただくと「寄付金控除」など
税制上の優遇措置が受けられます